

ご門徒 各位

真宗大谷派福井別院
輪番 篠岡 誓法

毎月六度の定例会（ご案内）

ひがしごぼうどうぼう
— 「東御坊同朋の会」 —

令和8年度も「東御坊同朋の会」は以下のとおり活動いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

- ◆ どなたでもご参加いただけます
- ◆ 毎月6日・13日・17日・25日・28日
(午後1時30分始)

【テーマ】

- 6日 「『歎異抄』について」
- 13日 「東別院について」
- 17日 「『正信偈』について」
- 22日 「お勤め練習」(正信偈・念仏和讃)
- 25日 「蓮如上人の『御文』について」
- 28日 「宗祖・親鸞聖人の生涯について」

※ 好きな日を選んでご参加ください。(複数・全日参加可)

※ 6・17・25・28日の定例会の内容はライブ配信中

- ◆ 具体的な日程と内容の概要は裏面にて
- ◆ 会費は無料です。

【お問い合わせ先】

しんしゅうおおたに は ふく い べつ いん ひがしべつ いん

真宗大谷派福井別院（東別院）

(0776) - 21 - 4100 (代)

【日程】 毎月6・13・17・22・25・28日とも同じ

13:30～ 勤行（正信偈、念仏讃三洵）

14:00～ 解説（または、お勤め練習）
(休憩と質問)

15:00 終了予定

※ 6・17・25・28日はライブ配信中

※ 各日の詳細は、裏面「毎月六度の定例会」予定表を参照ください

【期日】 毎月以下の日に開催

6日 歎異抄筆者の唯円大徳の命日

親鸞聖人の弟子・唯円が聞いた聖人の言葉と、当時起こった教えに異なった見解への悲嘆を記した『歎異抄』についてお話しします。

13日 京都・東本願寺の先代門首の御命日

蓮如上人御影道中や吉崎の歴史、東本願寺や福井東別院の仕組みや運営方法などについて、お話しします。

17日 正信偈読解

別院独自のテキストと『同朋新聞』の「正信偈の世界」「ひかりを伝えた人—七高僧と聖徳太子」を読みながら「正信偈」についてお話しします。

22日 お勤め練習（正信偈・念仏和讃）

25日 本願寺8代・蓮如上人の御命日

蓮如上人の書かれた『御文』について、江戸時代の『御文来意鈔』（どのような経緯で80通の御文が書かれたかが紹介されている書物）を読みながら、お話しします。

28日 宗祖・親鸞聖人の御命日

親鸞聖人の生涯を描いた「御絵伝」（絵画部分）の説明と「御伝鈔」（文章部分）の現代語訳をした上で、お話しします。

東御坊の会「毎月六度の定例会」令和8年度 予定表

	6日	『歎異抄』第●章	13日	17日	『正信偈』	
4月	歎異抄はなぜ書かれたか	序	蓮如上人御影道中はいつ頃から始まったのか	なぜ阿弥陀如来をたのむのか	帰命無量寿如来	4月
5月	阿弥陀仏はどんな人を救うのか	第1章	なぜ、蓮如は吉崎に来たのか	阿弥陀仏の修行時代	法蔵菩薩因位時	5月
6月	何のために念仏を称えるのか(1)	第2章	福井別院の成り立ち	様々な仏の国土を見る	観見諸仏浄土因	6月
7月	悪人の救いとは	第3章	【永代経兼盂蘭盆会】	この上ない願いを起こす	建立無上殊勝願	7月
8月	仏は人の何を憐れむのか	第4章	【おつとめ練習】	永い間考え抜かれた結果	五劫思惟之摂受	8月
9月	何のために念仏を称えるのか(2)	第5章	秋の報恩講について	時代と国境を越えた救い	普放無量無辺光	9月
10月	どうしたら念仏出来るのか	第6章	(休会)	清らかで喜びにあふれた心	清浄歓喜智慧光	10月
11月	念仏の功德は莫大である	第7章	(休会)	自然をも超えた力	超日月光照塵刹	11月
12月	【福井東別院報恩講参拝】		福井別院と東本願寺の関係	如来の理想である行い	本願名号正定業	12月
1月	何のために念仏を称えるのか(3)	第8章	福井別院と福井教区の違い	悟りを得て安らぎに住する	成等覚証大涅槃	1月
2月	念仏しない人はどうなるのか	第9章	福井別院の体制について	仏がこの世に出た意味	如来所以興出世	2月
3月	念仏は人知を超えた行ない	第10章	福井別院の運営と会計について	我々の世界に仏教を広める	五濁悪時群生海	3月

	25日	『御文』第●帖▲通	28日	『御伝鈔』上・下巻第●段	
4月	【吉崎別院御忌法要参拝】		弟子から見た親鸞聖人(八十四歳)	「蓮位夢想」上-4	4月
5月	教えは誰から聞くのがよいか	「五重の義」2-11	往生浄土の証明(二十九歳)	「選択付属」上-5	5月
6月	他宗・他人を批評するな	「立山白山」1-14	先輩への挑戦(三十歳頃)	「信行両座」上-6	6月
7月	教を知らぬ者は作法にこだわる	「数珠」2-5	先輩への挑戦2(三十歳頃)	「信心諍論」上-7	7月
8月	仏に上下区別なし	「法華同時」2-8	画家が見た親鸞聖人(七十歳)	「入西房鑑察」上-8	8月
9月	仏の御恩を忘れないのが信心か	「三経安心」1-13	罪人の生活(四十歳)	「師弟流謫」下-1	9月
10月	開山の一流相伝のおもむき	「支證」3-5	師・法然聖人との別れ(四十二歳)	「稲田興法」下-2	10月
11月	【京都本山報恩講参拝】		山伏の改心(四十二歳)	「弁円済度」下-3	11月
12月	蓮如上人による仏敵の改心	「唯能常称」3-6	(歳末休み)		12月
1月	念仏を称えるのは自力か?	「十劫邪義」3-8	京都へ帰る途中で(六十歳ころ)	「箱根靈告」下-4	1月
2月	吉崎退去後の大坂の報恩講で	「毎年不闕」3-11	公務で熊野へ参詣する弟子に対して	「熊野靈告」下-5	2月
3月	後生と今生は両輪の如し	「当流門徒中」3-13	臨終、そして火葬・納骨(親鸞九十歳)	「洛陽遷化」下-6	3月

【22日】
 聖徳太子の御命日
 正信偈・念仏和讃
 などのお勤め練習
 をします。



福井東別院LINE

【日 程】 毎月6・13・17・22・25・28日とも同じ

13:30～ 勤行(正信偈、念仏讃三淘、次第六首) 14:00～ 上記テーマでお話(休憩と質問) 15:00 終了予定